

受験番号		名前	
------	--	----	--

令和3年度 大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト

幼稚園 教科専門 問題集 (択一式)

受験中の心得

- 1 試験時間中は、すべて係員の指示に従ってください。お互いに話をしたり、席を立ったり、そのほか、人の迷惑になるようなことをしてはいけません。
- 2 試験開始後、まず名前を記入し、受験番号を次の〔記入例〕に従って黒くぬりつぶしてください。

〔記入例〕

	解答用紙	名前 <input style="width: 150px;" type="text" value="教育 花子"/>								
	受験番号									
	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">A</td> <td style="width: 20px;">9</td> <td style="width: 20px;">8</td> <td style="width: 20px;">7</td> <td style="width: 20px;">6</td> <td style="width: 20px;">5</td> <td style="width: 20px;">0</td> </tr> </table>	A	9	8	7	6	5	0		
A	9	8	7	6	5	0				
A	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	●	
B	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	●	⑨	⑩
C	①	②	③	④	⑤	⑥	●	⑧	⑨	⑩
D	①	②	③	④	⑤	●	⑦	⑧	⑨	⑩
E	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
F	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	●

- 3 答えは解答用紙に記入してください。
- 4 問題はいずれも五つの答えがでていますが、そのうち最も適切と思われる答えを一つ選んで、解答用紙の問題番号の右にある五つの数字のうち一つを次の〔解答例〕のように黒くぬりつぶしてください。

〔解答例〕 1 日本の首都はどこか。1～5から一つ選べ。

1 京都 2 奈良 3 東京 4 名古屋 5 大阪

この場合、正答は「3 東京」なので、解答用紙の問題番号1の右横に並んでいる③を黒くぬりつぶしてください。

1	①	②	●	④	⑤
---	---	---	---	---	---

- 5 間違っぬりつぶしたときは、消しゴムでよく消してください。
- 6 問題は24問となっています。
- 7 時間は90分です。
- 8 途中退室はできません。
- 9 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 10 計算を必要とする場合は問題集の余白を利用してください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1 次のア～エの各文は、幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開（平成25年7月改訂）の記述の一部である。小学校の教育課程との接続と指導計画についての記述として、正しいもののみを挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 小学校教育を含む義務教育は、生涯にわたって自ら学ぶ態度を培う上で重要なものですが、それは小学校から突然始まるものではなく、幼児期との連続性・一貫性ある教育の中で成立するものです。その意味で幼児期から児童期にかけての教育の目標を、生涯にわたる「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉えることが大切です。

イ 幼児期の終わりには学びの芽生えだけでなく自覚的な学びの芽も育ってきており、教科指導こそ行われないものの、気のあった仲間同士の活動だけでなく学級における共通の目標を意識したり、自分の役割を理解したりして、集団の一員としての自覚を育てる活動を重視したり、今までの遊びを通して学んできた知・徳・体の芽生えを総合化し、小学校につながる学びを高めていくための教育課程の編成・実施が必要となってきます。

ウ 幼児期の終わりにおいては、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことを目指すことが求められます。その際、幼児期の「三つの自立」の育成が、小学校における「三つの自立」や「学力の三つの要素」の育成につながっていくことを踏まえ、今の学びがどのように育っていくのかを見通すことが重要です。

エ 幼児期の教育と小学校の教育の円滑な接続のためには、その時期にある子どもの発達の段階を踏まえて互いの教育を充実させながらも、接続期には一方が他方に合わせていくことが大切である。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ | エ |
| 2 | ア | イ | ウ | |
| 3 | イ | ウ | エ | |
| 4 | ア | イ | | |
| 5 | ウ | エ | | |

2 次のア～ウの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月告示）第2章第1節 ねらい及び内容の考え方と領域の編成に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼児期は、生活の中で自発的・主体的に環境と関わりながら直接的・具体的な体験を通して、生きる力の基礎が培われる時期である。したがって、幼稚園教育においては、このような幼児期の特性を考慮して、幼稚園教育において育みたい資質・能力が幼児の中に一体的に育まれていくようにする必要がある。

イ 幼児が生活を通して発達していく姿を踏まえ、教師が幼児の発達の実情を踏まえながら指導し、幼児が身に付けていくことが望まれるものを「ねらい」とし、幼稚園教育において育みたい資質・能力を達成するために幼児の生活する姿から捉えたものを「内容」としたものである。

ウ 幼稚園教育における領域は、それぞれが独立した授業として展開される小学校の教科とは異なるので、領域別に教育課程を編成したり、特定の活動と結び付けて指導したりするなどの取扱いをしても差し支えない。

	ア	イ	ウ
1	○	×	×
2	○	×	○
3	×	○	×
4	×	○	○
5	×	×	○

- 3 次のア～エの各文のうち、学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月 文部科学省）についての記述として、正しいものを全て挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼児が自分で状況に応じ機敏に体を動かし、危険を回避するようになるためには、日常生活の中で十分に体を動かし遊ぶことを通して、危険な場所、事物、状況などが分かり、そのときにとるべき最善の行動について体験を通して学び取っていくことが大切である。

イ 交通安全の習慣を身に付けるために、日常生活を通して、交通上のきまりに関心をもたせるとともに、家庭と連携を図りながら適切な指導を具体的な体験を通して繰り返し行うことが必要である。

ウ 災害時の行動の仕方や不審者との遭遇など様々な犯罪から身を守る対処の仕方を身に付けるためには、幼児の年齢に応じた対処の方法を伝えることが大切である。

エ 事故等が発生した場合の連絡の仕方・幼児の引き渡しの方法については、年度当初に保護者と確認しておく。併せて、保護者の勤務場所や兄弟姉妹の有無及び在籍校、緊急時の連絡先を事前に確認し、迎えが遅くなる幼児を把握しておく。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | |
| 2 | イ | エ | |
| 3 | ア | イ | ウ |
| 4 | ア | イ | エ |
| 5 | イ | ウ | エ |

4 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領（平成29年3月）領域「健康」の内容についての記述として正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

イ よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。

ウ 自分でできることは自分でする。

エ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	○
2	×	×	○	○
3	×	○	○	×
4	○	×	×	○
5	○	×	○	×

- 5 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年2月）第2章第2節 各領域に示す事項の3歳児に関する記述について、領域とその内容に関する記述の組合せが正しいものを全て選択した場合、正しいものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 領域「表現」

特に、3歳児では、例えば、「まぶしいこと」を「目がチクチクする」と感じたことをそのままに表現することがある。このような感覚に基づく表現を通して幼児がそれぞれの言葉にもつイメージが豊かになり、言葉の感覚は磨かれていく。したがって、教師は、このような幼児らしい表現を受け止めていくことが大切である。

イ 領域「表現」

特に3歳児では、じっと見る、歓声を上げる、身振りで伝えようとするなど言葉以外の様々な方法で感動したことを表現しているので、教師はそれを受容し、共感をもって受け止めることが大切である。

ウ 領域「人間関係」

特に、3歳児では、大人から見ると一見やり遂げていないように見えても、幼児なりにやり遂げたと思っていることもある。そのような場合、教師は、幼児の心に寄り添って、そのやり遂げたという気持ちを受け止め、その喜びに共感するとともに、幼児がその達成感を味わうことができるようにすることが大切である。

エ 領域「言葉」

特に、3歳児では、生活に必要な言葉の意味や使い方が分からないことがよくある。「みんな」と言われたときに、自分も含まれているとはすぐには理解できないこともあったり、「順番」と言われても、まだどうすればよいのか分からなかったりすることもよくある。教師は、幼児の生活に沿いながらその意味や使い方をその都度具体的に分かるように伝えていくことにより、幼児も次第にそのような言葉の意味が分かり、自分でも使うようになっていくことから、一人一人の実情に沿ったきめ細かな関わりが大切である。

オ 領域「人間関係」

特に、3歳児は大人が予期しない行動をとる場合もあり、様々な状況を予測して安全の確保に配慮することが必要であるとともに、教師と一緒に行動しながら個々の状況の中で、幼児なりに安全について考え、安全に気を付けて行動することができるようにする必要がある。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | エ | オ | |
| 2 | ア | イ | ウ | オ |
| 3 | イ | ウ | エ | オ |
| 4 | イ | ウ | エ | |
| 5 | ア | ウ | エ | オ |

6 幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年2月）第2章第3節 環境の構成と保育の展開に関する記述として、誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。

- 1 教師は、一人一人の幼児の中に今何を育みたいのか、一人一人の幼児がどのような体験を必要としているのかを明確にし、幼児がどのような活動の中でどのような体験をしているのかを考慮しながら、教師としての願いを環境の中に盛り込んでいかなければならない。幼児の主体的な活動を通しての発達、教師が、幼児の周りにはある様々なものの教育的価値を考慮しながら、綿密に配慮し、構成した環境の下で促されるのである。
- 2 幼児は遊ぶことによりその遊びの状況を変え、状況を変えつつ遊びを展開させていく。教師は幼児の遊びに関わる時、幼児の遊びのイメージや意図が実現するようにアドバイスしたり、手助けしたりして幼児が発達に必要な経験を得られるような状況をつくり出すことが大切である。
- 3 幼児一人一人の活動の意味や取り組み方、環境への関わり方などを正しく把握するためには、ものの性質をよく知った上で、幼児の活動にいつでも参加しようとする姿勢をもち、幼児の内面の動きに目を向け続けていることが必要である。その上で、教師は、幼児の興味や欲求が満たされるような環境を常に構成しなければならない。
- 4 教師は、幼児が自ら環境に関わり、豊かな体験をしていくことができるように環境を構成するのであるが、その際、教師は、幼児の活動に沿って環境を構成する必要がある。このためには、教師は幼児の視点に立って環境の構成を考えなければならない。
- 5 幼児の活動への意欲や主体的な活動の展開はどのような環境においても自然に生じるというわけではない。まず、環境全体が緊張や不安を感じさせるような雰囲気では、活動意欲は抑制されてしまう。幼児が安心して周囲の環境に関われるような雰囲気が大切である。その上で、幼児の中に興味や関心がわいてきて、関わらずにはいられないように、そして、自ら次々と活動を展開していくことができるように、配慮され、構成された環境が必要である。

7 次の文は、幼稚園設置基準の抜粋である。空欄ア～ウに入る言葉の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

第三条

一学級の幼児数は、人以下を原則とする。

第四条

学級は、において同じ年齢にある幼児で編成することを原則とする。

第九条

幼稚園には、次の施設及び設備を備えなければならない。ただし、特別の事情があるときは、

とは、それぞれ兼用することができる。

- 一 職員室
- 二 保育室
- 三 遊戯室
- 四 保健室
- 五 便所
- 六 飲料水用設備、手洗用設備、足洗用設備

	ア	イ	ウ
1	四十	学年の初めの日	職員室と保育室及び遊戯室と保健室
2	四十	学年の初めの日	保育室と遊戯室及び職員室と保健室
3	三十五	学年の初めの日	保育室と遊戯室及び職員室と保健室
4	三十五	学年の初めの日の前日	保育室と遊戯室及び職員室と保健室
5	三十五	学年の初めの日の前日	職員室と保育室及び遊戯室と保健室

8 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）総則 教育課程の役割と編成等に関する記述として正しいもののみを全て挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼稚園生活が幼児にとって安全なものとなるよう、教職員による協力体制の下、幼児の主体的な活動を大切にしつつ、園庭や園舎などの環境の配慮や指導の工夫を行うこと。

イ 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、小学校で学習する内容を一部取り入れることによって、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

ウ 教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、各幼稚園の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

エ 幼稚園の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とする。ただし、幼児の心身の発達の程度や季節などに適切に配慮するものとする。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | エ |
| 2 | ア | イ | ウ |
| 3 | ア | エ | |
| 4 | ウ | エ | |
| 5 | イ | エ | |

9 幼稚園教育要領（平成29年3月）領域「人間関係」の「内容」についての記述として誤っているものを次の1～5から一つ選べ。

- 1 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- 2 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。
- 3 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- 4 いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- 5 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

10 幼児理解に基づいた評価（文部科学省 平成31年3月）には、「日常の保育からどのように評価し、幼稚園幼児指導要録の『指導に関する記録』を記入するか」について書かれている。「指導に関する記録」の「指導上参考になる事項」の欄の記入についての記述として、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から他の幼児と比較し向上が著しいと思われるものを捉えていきます。

イ 実際の記入は年度末に行いますが、年度の初めから幼児の発達する姿を捉え続けながら保育を進め、その過程を記録として残しておくことが大切なのです。

ウ 最終年度の「指導上参考となる事項」欄の記入にあたっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を到達すべき目標として、項目別に幼児の育ちつつある姿を記入します。

エ 幼児の発達を促す観点から問題点を指摘するのではなく、年度当初の姿と比較してその幼児の伸びようとしている面、よさや可能性を捉えることを中心に記述することが大切です。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	×	○
2	○	○	×	×
3	×	×	○	×
4	○	×	○	○
5	×	○	○	○

- 11 次の文章は、「指導計画の作成と保育の展開」（文部科学省 平成25年7月改訂）5歳児のリレー遊びに関する記録と振り返りから作成した事例である。

次の文章を、下記の①から③の視点で振り返り、ふさわしいものを選択したとき、正しいものの組合せはどれか。1～5から1つ選べ。

〈9月9日（水）（5歳児）〉

朝からリレーに参加する幼児が多い。チーム分けはジャンケンで行うが意識の薄い幼児は二度、ジャンケンしてしまったり、ジャンケンしないで並んでしまったりしている。

走ること、だんだんと速くなってきていることがうれしいようであり、エンドレスで走る。差が開きすぎたとき、「どっちが勝っているの？」という言葉が何度か聞かれ、友達と競い合っていることが楽しくなっている様子である。相手チームとの人数が全然違っていてもゲームが続いており、人数調整して勝敗を競おうとする動きは出てこない。アンカーたすきも「やってみたい」という思いで走り終わった子が近くにいた友達に渡していき、誰がアンカーで走っているのかも分からなくなってしまった。

b児は、ぐっと走り方が変わってきた。c児は、自分がバトンをもらったときに前を走っていると「抜かした」と思っているらしく、誇らしげに報告してくれた。

d児とe児は、ゴールテープを持っているが、庭の中央を二人でぐるぐると回って、最後にはゴールテープは置き去りになっていた。・・・（後略）

4週間後に運動会を控えていることもあり、教師は、どうにかしてリレーの遊びが運動会へとつながっていくように支えたいと思っていました。しかし、リレーに参加する幼児は多いのに、遊びが続かず終わってしまう実態が悩みでもありました。そこで、この日の記録から、遊びの中で幼児が何を楽しんでいたのか、どのように人やものとかかわりながら遊んでいたのかを次の視点から振り返ってみることにしました。

- ①走る楽しさを味わうことができたか。

A

- ②友達の動きを感じながら自分も動いているか。

B

- ③チーム対抗の勝負への意識はどうか。

C

ア チーム分けでのジャンケンの様子や、人数調整して勝敗を競おうとする動きは見られない様子などから、チーム対抗の勝負の意識はまだ芽生えていない。幼児が楽しんでいることは、運動会の競技としてのリレーそのものではなく、そこに向かう過程の、繰り返し自分が走るエンドレスリレーであることが分かる。

イ 朝からリレーに参加する幼児が多いことや、だんだんと速くなってきていることがうれしい様子から、体を動かして遊ぶこと、特に、走ることは、幼児の興味や関心と合っており、面白いと感じて自分から取り組む遊びとなっているようである。その結果、ぐっと走り方が変わってきたり児のように、走り方についての成長も見られる。

ウ アンカーたすきやゴールテープを扱う様子から、幼児にはそれらへの興味がないため、本来の扱い方を正しく理解させる必要があると言える。また、ジャンケンをしなくて並んだり、人数調整をして勝敗を競うようにならないのは、リーダーとなって進められる幼児がいいためであり、チーム対抗の勝負の意識は芽生えていないと言える。

エ チーム分けの意識や必要性を感じていないものの、チーム分けでのジャンケンの様子のように周囲の友達と同じような動きをしながら遊びに参加しようとしたり、友達と競い合うことが楽しくなっている様子や「抜かした」と誇らしげに報告する様子のように相手を意識して走ろうとしたりしていることから、友達を感じて自分も動いていることが分かる。

	A	B	C
1	ア	エ	ウ
2	ウ	ア	イ
3	イ	エ	ア
4	エ	イ	ア
5	イ	エ	ウ

12 次の文は、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）総則 幼稚園教育の基本についての記述である。下線部ア～エについて正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、ア教師が主体的に保育を展開するとともに、よりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

- 1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。
- 2 幼児の自発的な活動としての遊びは、イ心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。
- 3 幼児の発達は、ウ心身の諸側面はそれぞれに発達し、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

その際、教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、エ教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	×	○
2	×	○	×	×
3	×	○	○	×
4	○	×	×	○
5	○	×	○	×

13 次のア～オの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月）第2章第2節 領域「言葉」の内容についての記述として正しいもののみをすべて挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 親しみをもっていろいろな挨拶を交わすことができるようになるためには、何よりも教師と幼児、幼児同士の間で温かな雰囲気につながりがつくられていることが大切である。

イ 絵本や物語、紙芝居などを読み聞かせることは、現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出会うことになる。登場人物になりきることなどにより、自分の未知の世界に出会うことができ、想像上の世界に思いを巡らすこともできる。

ウ 教師は、幼児の生活に沿いながらその意味や使い方をその都度具体的に分かるように伝えていくことにより、幼児も次第にそのような言葉の意味が分かり、自分でも使うようになっていくことから、一人一人の実情に沿ったきめ細かな関わりが大切である。

エ 幼児期においては、幼児が友達と関わる中で、自分を主張し、自分が受け入れられたり、あるいは拒否されたりしながら、自分や相手に気付いていくという体験が大切である。

オ 幼児は音楽を聴いたり、絵本を見たり、つくったり、かいたり、歌ったり、音楽や言葉などに合わせて身体を動かしたり、何かになったつもりになったりなどして、楽しんだりする。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | |
| 2 | イ | エ | |
| 3 | ア | イ | ウ |
| 4 | ア | イ | オ |
| 5 | イ | エ | オ |

14 次の各文のうち、幼児期運動指針（幼児期運動指針策定委員会 平成24年3月）「2 幼児期における運動の意義」についての記述として、誤っているものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感は、体を活発に動かす機会を増大させるとともに、何事にも意欲的に取り組む態度を養う。

イ 体調不良を防ぎ、身体的にも精神的にも疲労感を残さない効果があると考えられる。

ウ 幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは、児童期までの運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。

エ 敏捷な身のこなしや状況判断・予測などの思考判断を要する全身運動は、脳の認知的能力の発達には有効でないが、体力・運動能力の発達促進に有効である。

オ ルールを守り、自己を抑制し、コミュニケーションを取り合いながら、協調する社会性を養うことができる。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | ア | イ |
| 2 | イ | ウ |
| 3 | ウ | エ |
| 4 | エ | オ |
| 5 | ア | オ |

15 次のア～オの各文のうち、「外国人幼児等の受入れにおける配慮について」（文部科学省）に記載された内容として、正しいものを全て挙げているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 名前は個人のアイデンティティの根源なので、呼び方などを確認しましょう。例えば、本名の表記と発音について確認した上で、普段の幼稚園生活における表記や呼び方（本名又は通り名等）について保護者に確認しましょう。

イ 教師は外国人幼児等に受容的な態度で臨み、そのことをその幼児自身が感じ取れるようにすることが大切です。母語で挨拶したり、興味のある遊びを一緒に楽しんだりする中で、信頼関係を築き、幼稚園生活を楽しめるようにしましょう。

ウ 幼稚園では日本語を話さなければならないと外国人幼児等が思い込むことで、自己発揮できなくなったり、幼稚園生活に不安を感じたりすることも考えられます。母語の使用が気持ちの安定に効果的な場合もあります。外国人幼児等の気持ちを受け止めながら、無理なく自然に日本語に親しんでいけるようにすることが大切です。

エ 外国人幼児等を受け入れることは、在籍している幼児にとっても異なる習慣や行動様式をもった外国人幼児等と関わり、それを認め合う貴重な経験につながります。グローバル化が進展する中、教師自身が、互いの文化を尊重し合い、共生していくといった広い視野をもつことが大切です。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | | |
| 2 | ア | イ | ウ | |
| 3 | ア | イ | エ | |
| 4 | イ | ウ | エ | |
| 5 | ア | イ | ウ | エ |

16 次の文は、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）領域「環境」の内容の一部である。下線部ア～ウの記述について、内容が正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

・ 幼児が^ア生活の中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の^イ永続性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の幼児の考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

・ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、^ウ生命を大切にすること、公共心、探究心などが養われるようにすること。

	ア	イ	ウ
1	×	○	○
2	○	×	×
3	○	○	×
4	×	○	×
5	×	×	○

- 17 幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年2月）第2章第3節 環境の構成と保育の展開に関する記述である。発達それぞれの時期によって見られる特徴のある様相と発達の時期に即した環境の構成について、正しいものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

〈発達それぞれの時期によって見られる特徴のある様相〉

- A 入園当初の不安や緊張が解けない時期には、幼児は、日頃家庭で親しんでいる遊具を使って遊ぼうとしたり、自分が安心できる居場所を求めたりする。
- B 安定して遊ぶようになると、幼児は同じ場で遊ぶ他の幼児に関心を向けたり、行動の範囲や活動の場を広げるようになる。
- C 幼児は、友達と一緒に遊ぶ楽しさや様々な物や人との関わりを広げ深めていくようになる。

〈発達の時期に即した環境の構成〉

- ア 友達と力を合わせ、継続して取り組む活動ができる場の構成を工夫することが大切である。また、友達の刺激を受けながら自分の力を十分発揮していけるように、探究心や挑戦する意欲を高めるような環境の構成が重要である。
- イ 一人一人の家庭での生活経験を考慮し、幼児が安心して自分の好きな遊びに取り組めるように、物や場を整えることが必要である。また、教師はできるだけ一人一人との触れ合いをもつようにし、その幼児なりに教師や友達と一緒に過ごす楽しさを感じていけるように穏やかな楽しい雰囲気をつくることが大切である。
- ウ 幼児が友達との遊びを安定した状態で進めたり、広げたりできるような場を構成すること、活動の充実に向けて必要な遊具や用具、素材を準備すること、幼児の新たな発想を生み出す刺激となるような働き掛けをすることが大切となる。

	A	B	C
1	ア	ウ	イ
2	イ	ウ	ア
3	ウ	イ	ア
4	ア	イ	ウ
5	イ	ア	ウ

18 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年2月）第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項に関する記述の一部である。教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動に関する記述として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 教育課程に係る教育時間外の教育活動は、通常の教育時間前後や長期休業中などに、地域の実態や保護者の要請に応じて、幼稚園が当該幼稚園の全園児一斉に行う教育活動である。

イ 教育課程に基づく活動を考慮して展開するためには、教育課程に基づく活動を担当する教師と教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を担当する者が、幼児の活動内容や幼児の心と体の健康状態についてお互いに引き継ぎをするなど、緊密な連携を図るようにすることが大切である。

ウ 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動については、地方自治体で決められている日数や時間に合わせた、計画を作成する必要がある。

エ 教育課程に基づく活動と教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、両方とも幼稚園の教育活動であることから、それぞれを担当する教師が日頃から合同で研修を行うなど緊密な連携を図るとともに、それぞれの担当者がそれぞれの教育活動を等しく担っているという共通理解をもち、幼稚園全体の教師間の協力体制を整備することなども大切である。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	×	○	○	○
4	×	×	○	×
5	×	○	×	○

19 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月）第2章第3節 環境の構成と保育の展開に示された記述の一部であるが、記述に誤りが含まれているものがある。記述の内容として正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 教師は、常に幼児が具体的な活動を通して発達に必要な経験を積み重ねていくよう必要な援助を重ねていくことが大切であり、そのためには活動のきっかけを捉え、幼児の活動の理解を深めることが大切である。

イ 幼児の活動の理解に当たっては、活動にかかわっている幼児の表面的な動きや人数などの規模の大きさを理解することが大切である。

ウ 教師がねらいに基づいて構成した環境は幼児の発達に意味のあるものなので、環境を固定しておくことが大切である。

エ 教師は幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して発達に必要な経験が得られるよう、援助することが重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	○	×
2	○	○	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

20 次の文は、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）「障害のある幼児などへの指導」についての記述である。下線部ア～オの記述の内容が正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

障害のある幼児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して、ア諸能力の個別の発達を促していくことに配慮し、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を、イ組織的かつ画一的に行うものとする。また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、ウ長期的な視点で幼児への教育的支援を行うために、エ個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、個々の幼児の実態を的確に把握し、オ個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	×	×	×	○	○
2	○	×	○	×	○
3	×	○	×	○	○
4	○	○	×	○	×
5	×	×	○	○	○

21 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月）第2章第2節 領域「健康」の内容の取扱いについての記述の一部であるが、記述に誤りが含まれているものがある。内容の取扱いについての記述として誤っているものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 様々な遊びの中で、多様な動きに親しむことは幼児期に必要な基本的な動きを身に付ける上で大切である。そのために教師は特定の動きに特化した指導を行うことが必要である。

イ 食生活の基本は、まず家庭で育まれることから家庭との連携は大切である。特に、食物アレルギーなどをもつ幼児に対しては、家庭との連携を図り、医師の診断など必要な情報を得て、適切な対応を行うなど、十分な配慮をする必要がある。

ウ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、幼児が一つ一つの生活行動を確実に身につけられるように、幼稚園の生活の流れの中で、行動様式を繰り返して行わせることによって習慣化させる指導を行うことが大切である。

エ 幼稚園生活の中では安全を確保するために、場合によっては、厳しく指示したり、注意したりすることも必要である。その際、幼児自身が何をしてはいけないか、なぜしてはいけないのかを考えるようにすることも大切である。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | ア | イ |
| 2 | ア | ウ |
| 3 | ア | エ |
| 4 | イ | ウ |
| 5 | イ | エ |

22 次の各文のうち、〔 〕内に示されている法規名と、条文または条文の一部の組合せとして誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。

1 〔教育基本法〕

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

2 〔学校教育法〕

幼稚園に入園することのできる者は、満三歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。

3 〔学校教育法施行規則〕

幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、三十九週を下つてはならない。

4 〔教育基本法〕

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

5 〔教育基本法〕

父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

23 次の文は、幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示）第2章第2節 領域「表現」に関する記述の一部である。空欄（A）～（C）に当てはまる語句をあとの語群から選ぶとき、語句の組合せとして正しいものを1～5から一つ選べ。

豊かな感性や自己を表現する（A）は、幼児期に自然や人々など身近な環境と関わる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する（B）を味わうことによって育てられる。したがって、幼稚園においては、日常生活の中で出会う様々な事物や事象、文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し、表現し合うことを通して、豊かな（C）を養うようにすることが大切である。

語群

ア	習慣	イ	意欲	ウ	態度
エ	充実感	オ	達成感	カ	満足感
キ	感性	ク	心	ケ	創造性

	A	B	C
1	ア	エ	ケ
2	ア	オ	ケ
3	イ	エ	キ
4	イ	カ	ク
5	ウ	オ	キ

24 幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」(文部科学省 平成25年7月)では、保育記録の意義と生かし方の中で、記録への認識を深め保育に生かせるように、記録の意義を5つの視点から述べている。次の文は、その中の「幼児理解を基に次の保育を構想するために」という視点からの記述の抜粋である。次のア～エの下線部の記述について、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

保育実践の過程は循環しており、その起点となるのは幼児理解です。ア 幼児理解に基づいて教師は指導計画を立て保育を展開します。では、どのような視点で幼児を理解すれば指導計画のねらいや内容の設定、環境の構成などの作成につながるのでしょうか。幼児の年齢や時期によって異なりますが、次のような点が挙げられます。

- ・ イ 幼児の言動から、遊びの何に面白さを感じているのかを読み取る
- ・ そこでものや人とどのような関係を結んでいるのかを理解するとともに、課題も見いだす
- ・ ウ その課題を幼児が効率よく解決するためにどのような経験が必要なのかを考える
- ・ その経験を満たす可能性のある環境(遊び・活動を含む)は何かを考え、教師の場に応じた役割を考える(仲間になって動く、環境を提案・提示する等)
- ・ 結果としてエ 幼児一人一人の状態を、他の幼児との比較により捉える

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	×
2	×	○	×	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	○	×	○	×

